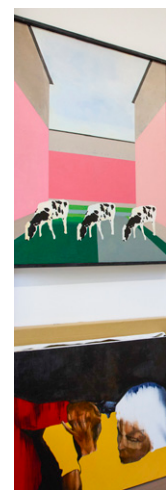




STARTBox 2023-2024



01 START Boxとは	03
START Box のあゆみ	04
参加アーティスト一覧	05
02 START Box ササハタハツ 2023-2024	07
2023年度参加アーティスト紹介	08
2023年度オープンアトリエ (地域交流イベント)	12
2024年度参加アーティスト紹介	14
2024年度オープンアトリエ (地域交流イベント)	18
03 START Box お台場 2023-2024	20
参加アーティスト紹介 (地域交流イベント)	21
04 作品発表の機会	
MEET YOUR ART FESTIVAL 2023-2024	24
START Box EXHIBITION 2023-2024	26
05 利用者の声	28

01 START Box とは

アトリエ等を確保することが難しい若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援する、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の事業です。2023年4月に、渋谷区笹塚・幡ヶ谷にある都営住宅の空き店舗を活用した創作スペース「START Box ササハタハツ」、2023年11月には、お台場の東京都住宅供給公社の空き店舗を活用した創作スペース「START Box お台場」をオープンし、これまで45名が利用しています。また、オープンアトリエ等による地域やアーティスト同士での交流や、文化イベントによる作品発表の場の提供などを通じて、アーティストの活動支援を行っています。



START Boxのあゆみ

2023年	4月	START Box ササハタハツ 開設 2023年度 1期 利用開始
	6月	オープンアトリエ開催 第1回 ササハタハツ
	7月	2023年度 2期 利用開始 ササハタハツ
	8月	オープンアトリエ開催 第2回 ササハタハツ
	9月	オープンアトリエ開催 第3回 ササハタハツ
	10月	2023年度 3期 利用開始 ササハタハツ
		MEET YOUR ART FESTIVAL 2023 出展
	11月	START Box お台場 開設 2023年度1期 利用開始
		オープンアトリエ(アトリエツアー)開催 第4回 ササハタハツ
	12月	オープンアトリエ開催 第5回 ササハタハツ
	1月	2023年度 4期 利用開始 ササハタハツ
	3月	START Box EXHIBITION vol.1 開催
2024年		オープンアトリエ開催 第6回 ササハタハツ
		第1回 お台場
	4月	2024年度 1期 利用開始 ササハタハツ・お台場
	6月	オープンアトリエ開催 第7回 ササハタハツ
		2024年度 2期 利用開始 ササハタハツ
	9月	START Box EXHIBITION vol.2 開催
		オープンアトリエ開催 第8回 ササハタハツ
		第2回 お台場
	10月	2024年度 3期 利用開始 ササハタハツ
		2024年度 2期 利用開始 お台場
		MEET YOUR ART FESTIVAL 2024 出展
	11月	オープンアトリエ開催 第9回 ササハタハツ
2025年	1月	2024年度 4期 利用開始 ササハタハツ
	2月	START Box EXHIBITION vol.3 開催
	3月	オープンアトリエ開催 第3回 お台場
		第10回 ササハタハツ

※2023年1月～3月 期間限定のプレ事業「START Box Roppongi」開設
(主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)



2023-2024 参加アーティスト一覧

START Box ササハタハツ		START Box お台場
2023	2024	2023
1期 2023.4.17-6.28 Haruka Mitta (絵画) おおえだ ゆき (絵画) 山田悠 (インスタレーション) 山本麻以 (ガラス) 早川佳歩 (版画) 山田悠太郎 (絵画)	1期 2024.4.10-6.28 三本木歎 (インスタレーション) 谷口真人 (メディアアート) 田中唯子 (版画) 林田真季 (写真)	1期 2023.11.6-2024.3.27 飯沼英樹 (彫刻)
2期 2023.7.10-9.27 西村祐美 (テキスタイル) SAKAMOTO ENTERTAINMENT (絵画) 山本未知 /thirdkindbooks (デザイン) 中山琳太郎 (立体) 澁木智宏 (立体、ファッション) 天草ミオ (絵画)	1・2期 中村亮一 (絵画) 阿久根聖瑠 (絵画)	2期 2024.10.7-2025.3.28 尾形凌 (絵画)
3期 2023.10.9-12.27 高橋真美 (写真) 滝本優美 (絵画) 西村祐馬 (写真) 松本千明 (絵画)	2期 2024.7.9-9.28 YUSEI (絵画) ヒラヤマミオ (絵画) 藤野遼太 (イラストレーション) 広光 (絵画・写真)	3期 2024.10.7-12.25 Junko Awatani (絵画) 中村雅奈 (絵画) 島田萌 (絵画) YUH TAKUNO (絵画)
3・4期 大原崇嘉 (メディアアート) 三澤亮介 (絵画)	3・4期 WAKO (絵画) 趙里奈 (メディアアート)	
4期 2024.1.8-3.27 松田匡代 (フォトグラファー) 南靖子 (絵画) Yoko Ichikawa (インスタレーション) 興梠優護 (絵画)	4期 2024.1.8-3.28 岡田舞子 (写真) 金丸知樹 (絵画) 正木美穂 (絵画) 野々山裕樹 (写真)	

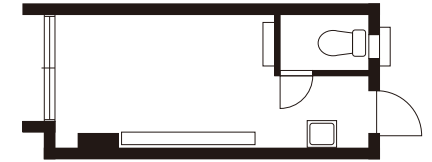




02 START Box ササハタハツ 2023-2024

STARTBox
ササハタハツ

笹塚・幡ヶ谷の水道道路沿いにある都営住宅の空き店舗を活用し、作品づくりのための環境を求めるアーティストを対象に、利用しやすい料金で貸し出しています。全室個室で冷暖房・Wi-Fi完備、集中できる環境でありながら、道路に面しているので解放感もある環境です。



笹塚 | 縦: 約6.1m、横: 約2.5m、天井高: 約2.6m
幡ヶ谷 | 縦: 約5.5m、横: 約2.5m、天井高: 約2.4m
[その他の主な設備]
冷暖房設備、トイレ、流し台、Wi-Fi、24時間機械警備



START Box ササハタハツ | 2023年度1期

笹塚

東京都渋谷区笹塚二丁目42番
都営笹塚二丁目アパート42-15号棟
1階 [約17㎡] 計3区画
・京王線「笹塚」駅から徒歩約6分



幡ヶ谷

東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目52番
都営幡ヶ谷二丁目第2アパート52-1号棟
1階 [約15㎡] 計3区画
・京王新線「幡ヶ谷」駅から徒歩約7分



START Box ササハタハツ 2023年度1期2期



Haruka Mitta アトリエ



中山琳太郎 アトリエ

1期 | 2023.4.17-6.28

笹塚

Haruka Mitta

ハルカミッタ | 独創的な日本画で「魂の共鳴」を描く表現者。京都大学卒業後、楽天株式会社就職。表現者として独立後、ロンドン芸大 (UAL) に留学。英国チェルシーフラワーショー展示 (2023年)、NY MvVo AD / ART SHOW 入選 (2024年)、絵本「あなたがいてだけで」(理論社) 出版 (2024年) と、国内外で幅広く表現活動を行う。



おおえだ ゆき

2023年多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。大学で学んだ日本画をベースに様々な技法を用いて制作。受賞歴に2021年シェル美術賞2021入選。



山田悠

やまだはるか | 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業後、デジジョン国立高等美術学校で空間デザインとアートの過程を修了。2022年には、瀬戸国際芸術祭に参加。受賞歴に2015年パリの Dauphine 現代アート賞にてグランプリ受賞。



森羅万象 All Kinds of elements(2022年) 日本画



あなたは変わってゆくのに、私だけが止まったままで (2023年)



「Sun of the City」リトアニア、ニダ (2018年)

幡ヶ谷

山本麻以

やまもとまい | 2020年東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻西洋美術史分野修了。2022年より東京ガラス工芸研究所でガラス工芸を学ぶ。板ガラスをカットし、組み合わせ、電気炉で焼成して形を作っていくガラスフュージングという技法で作品を制作。



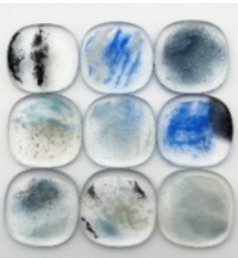
早川佳歩

はやかわかほ | 2021年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了。現在は東京都を拠点に活動し、月に1回版画のワークショップ「はながくらぶ」を企画運営。



山田悠太郎

やまだゆうたろう | 2018年東京藝術大学大学院修士課程修了。2018年より田中義久に師事、現在は centre Inc 所属。文化施設や展覧会のVI、サイン計画、作品集や書籍の装丁などのグラフィックデザインと、收拾した不用品を支持体とした絵画を制作。



パーツ素材：ガラス 技法：フュージング (2022年)



「untitled」(2022年) 謄写版 2022年 山と谷のあるところ出品作品 撮影：山下誠人



「杭とトンガリ」(2023年) 東京、展示風景より

2期 | 2023.7.10-9.27

笹塚

西村祐美

にしむらゆみ | 1984年福岡生まれ、多摩美術大学情報デザイン学科卒業。Web制作会社、映像制作会社勤務後、アナログへの回帰を試みる中で染織を独学。主な活動に、個展「repeat」(iwao gallery, 2022)、グループ展「Arte Laguna Prize」(イタリア, 2021)、「SICF22」(スパイラル, 2021)、「Arte Laguna Prize exhibition」(モーリシャス, 2021)など。受賞歴に「SICF22 保坂健二郎賞」(2021)、「Arte Laguna Prize ファイナリスト」(2021)、「Independent Tokyo 武石太郎賞・石橋高基賞」(2019)など。



「NR60_01」(2023年)

SAKAMOTO ENTERTAINMENT

1997年熊本県生まれ。多摩美術大学統合デザイン学科卒業。素材を研究し、新たな視点からものを見つめ直しデザインやアートに落とし込む。受賞歴に、muni art award 2022ファイナリスト。アートオリンピア 2022入選。長亭 GALLERY展 2022入選。SHIBUYA AWARDS 2021 入選。第3回 KYOBASHI ART WALL art competition優秀賞。



「RUBBER BANDS COLLECTION」(2019年) 素材：輪ゴム

山本未知 (thirdkindbooks)

2018年日本大学生産工学部創生デザイン学科スペースデザイン専攻卒業。現在thirdkindbooks という名前で活動中。本との出会いや関わる環境に新たな可能性を提案している。その他アートプロジェクトの企画・展示構成や設営、アーカイブ映像制作など。今年10月より開催予定のさいたま国際芸術祭2023 市民プロジェクトでは空間デザイン、アーカイブ映像を担当する。



上：群馬青年ビエンナーレ2019 下：さいたま国際芸術祭2020

幡ヶ谷

中山琳太郎

なかやまりんたろう | 2023年日本大学藝術学部美術学科彫刻コース卒業。粘土やスタイロフォームなど可塑性のある素材を用いて立体作品を制作する。自身が生活の中で発見した感覚や景色を、幼少期の曖昧だった感覚や景色とリンクさせ、作品を通して再構築する。受賞歴に、公益財団法人北野生涯教育復興会彫刻奨学生。



「nomadic list」 2022年

澁木智宏

しぶきともひろ | 北海道小樽市出身。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。日常の暮らしの中で個々に記号として認識されている物事を、連続性・集合性・一体性の観点から捉えなおすことに関心を持ち、制作活動を行う。近年の主な展覧会に、「MMMみなとメディアミュージアム2020→2021」、「UNMANNED 無人駅の芸術祭」など国内外で発表を行う。



「隣の景色」(2021年) Film on Windows ひたちなか海浜鉄道車内

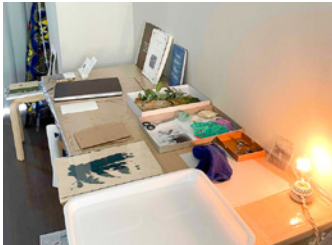
天草ミオ

あまくさみお | 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。フィルムや布を使ったペインティングやドローイング、陶、近年は映像も制作している。身体のあり方と、記憶や物語、歴史を重ねあわせた作品を作る。「茨木映像芸術祭 2024-2025」入選、「Tokyo Artist Accerallator Program2024」採択、「中央線芸術祭」参加 (2024)「右手の声、左手の反逆 (2024/JINEN GALLERY)」 「Unwrapped body (2023/JINEN GALLERY)」 「いつかのアイコン (2022/JINENGALLERY)」 「ディアファネス (2020/RED AND BLUEGallery)」 「黄金町バザール 2019 (2019/ 黄金町)」 「群馬青年ビエンナーレ2019 (2019/ 群馬県近代美術館)」 等



「Party Night」(2022年) 和紙、アクリル絵具、土、その他

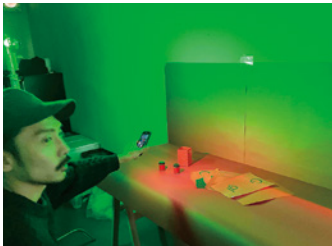
START Box
ササハタハツ
2023年度3期4期



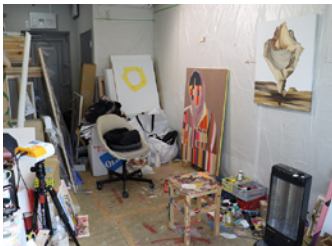
高橋真美アトリエ



西村祐馬アトリエ



大原崇嘉アトリエ



三澤亮介アトリエ



興侶優護アトリエ

3期 | 2023.10.9-12.27

笹塚

高橋真美

たかはしみ | 東京都出身。日本大学芸術学部デザイン学科卒業。営業職や起業家コミュニティでの仕事を経て2022年よりフリー。グラフィックデザイナーとしてのエディトリアルな視点を持ちつつ、記録・保存と写真との関係性をテーマにする作品を公開している。また、制作プロセスの共有による他者との関係性を模索、ワークショップも実践中。



滝本優美

たきもとゆみ | 1992年東京都生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。「絵の具を描く」アーティスト。ペインティングナイフを握り、クリームを塗る行為のように絵の具をのせていく。キャンパスの枠を超え、はみ出し、決められたキワを無くしていく。建築物やコンクリートのパッチワークのように、まるでそれだけで自立をしているように建つ。かたちや色から想起され、何かに見えるがただそこには絵の具という物質が存在している。2024年6月 Gallery Q にて個展開催予定。



上：「ある危機言語のための写真的実践」(2023年) 左下：サイアノタイプワークショップ(2023年) PHaT PHOTO SCHOOL にて実施 右下：「果樹を架ける」(2023年)



「between」(2023年)

幡ヶ谷

西村祐馬

にしむらゆうま | 1995年生まれ。日本大学芸術学部デザイン学科卒業。ビジュアルアーティスト、写真家。個人の存在を未来まで遺すことをコンセプトに制作を続ける。これまでに「KG+SELECT2023」ファイナリスト、「TOKYO FRONTLINE PHOTOAWARD 2022」審査員個人賞、Art Fair Beppu 2023など。



松本千明

まつもとちあき | 岡山県笠岡市生まれ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業後、広告制作会社、デザイン事務所を経て2018年に独立。グラフィックを中心にデザイン、ディレクション、大理石をモチーフにした作品制作を行っている。主な展覧会に、2021年『MARBLE is』(大倉精神文化研究所)、2023年『Transformation』(株式会社白水社)がある。



「Touched (Skin)」
Archival Pigment Print on leather



「ROOM_#008」(2023年)
木製パネル、アクリル絵具、その他 364×515mm

3・4期

笹塚

大原崇嘉

おおはらたかよし | 1986年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院映像学科メディア映像専攻修了。色彩や構成、人間の奥行き知覚の考察をベースとした視覚表現など。2017年からはアーティスト・コレクティブのヨフのメンバーとしても活動している。受賞歴に第67回カンヌ国際映画祭〈短編コンペティション部門ノミネート〉。第24回文化庁メディア芸術祭〈アート部門審査委員会推薦作品〉。



「Gazes」(2023年)
ディスプレイ、3Dセンサー、PC
Photo: Shunta Inoguchi

幡ヶ谷

三澤亮介

みさわりょうすけ | 1992年福井県生まれ。立教大学映像身体学科卒業後、写真家を経て2020年より現代アーティストの活動を本格化させた。映像や写真を自身のバックグラウンドに持ち、その多角的な視点を平面作品に凝縮させる。主な個展に、「NOH」(HOFA Gallery、ギリシャ、2023)、「Projectthe Process」(AUGHT Gallery、ニューヨーク、2023)、「Tracing the night」(333Gallery、台北、2022)、「CUT!」(MEDEL Gallery SHU、東京、2022)、「SUDDEN」(銀座蔦屋書店、東京、2021)など。



「Trois」(2021年)
インクジェット印刷、アクリルマウント

4期 | 2024.1.8-3.27

笹塚

松田匡代

まつだまさよ | 愛知県生まれ。Royal College of Arts、MA Fine Art Photography 修士卒業。フォトグラフィーの歴史におけるPhotographyの語源が、ギリシャ語で「光によって描く」ということに着想を得て、光・影・痕跡を残すものの存在・視界と視覚などの間を行き来しながら、記憶・トラウマ・人と人(もしくは物・視覚など)との関係性などを表現する作品の制作を続けている。受賞歴に、Japan Photo Award 2017など。



南靖子

みなみやすこ | 静岡県生まれ。東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業。伝統的な日本画を現代的な新しい解釈のもとに再構築した作品を制作。日本画において伝統的に余白として表現されてきた箔を、図として表現することにより、図と地の関係が反転した、今までにない新しい絵画表現を模索している。ART OSAKA、ART FAIR ASIA FUKUOKA、3331 ART FAIR 2020などアートフェア出品。グループ展、個展多数。



「Pink rose」(2023年)
和紙に箔、アクリル絵具。シルクスクリーンプリント

幡ヶ谷

Yoko Ichikawa

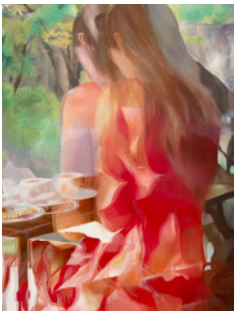
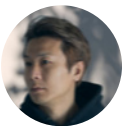
群馬県前橋市生まれ。桑沢デザイン研究所基礎造形専攻修了、国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科卒。一橋大学大学院言語社会学科修了。独学でイラストレーションやグラフィックデザインを学ぶ。新聞社に勤務後、2018年に渡英。留学先で被災地とアートフェスティバルの関係について研究したことを機に場所や物に宿る個人の記憶に興味を抱く。人種を問わない普遍的なテーマを他者に投げかけ、個人の記憶を引き出し、枠組みに囚われない幅広い表現で再現する。



「Stairway of Memories-記憶の階段-」(2023年)
布にプリント、天糸、金属パイプほか

興侶優護

こうろぎゆうご | 1982年熊本県生まれ。2009年東京藝術大学大学院美術研究科修了。人体のモチーフを軸に、光、色彩、視覚といった曖昧で移ろいゆくものに着目し、絵画性の拡がりを探る試みを行う。主な展覧会に2023年「VOCA 2023」上野の森美術館、東京2022年「KYOTOSTEAM 2022」京セラ美術館東山キュープ、京都など。



「 / 103 」(2023年)
oil on canvas

START Box
ササハタハツ
2023年度
オープンアトリエ

START Boxでは、地域交流イベントとしてオープンアトリエ等を定期的で開催しています。各アーティストは地域住民等に向けて、アトリエを公開し、訪れた方々と交流することで新たな視点を得ています。また、地域の方々も、普段の生活では触れる機会の少ないアートに刺激を受け、相互の交流の機会となっています。

第1回 オープンアトリエ 2023.6.25



第4回 オープンアトリエ (アトリエツアー) 2023.11.14



第2回 オープンアトリエ 2023.8.27



第5回 オープンアトリエ 2023.12.10



第3回 オープンアトリエ 2023.9.16



第6回 オープンアトリエ 2024.3.17



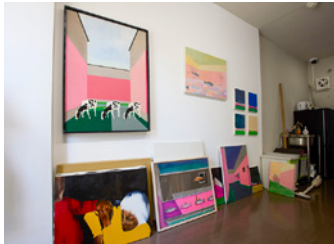
START Box ササハタハツ 2024年度1期2期



三本木敏アトリエ



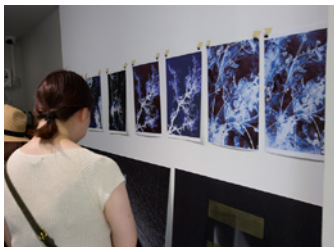
中村亮一WSの様子



阿久根瑠聖アトリエ



ヒラヤマミオアトリエ



広光アトリエ

1期 | 2024.4.10-6.28

笹塚

三本木敏

さんぽんぎかん | 1990年東京都生まれ。場所のもつ固有の文脈や既存のイメージを、主に建築的な視点・思考で再解釈し、日常的な観点からは見落とされてしまうような、構造や連環を顕在化させる空間表現を展開する。そこから喚起された認識は、主題の出発点と終着点が時に反転したり並走したりすることによって、複合的な意味や様相を帯びていく。隣接するものの同士の関係性から始まり、その対象を徐々に敷衍させつつ、多様な手法で制作を試みる。

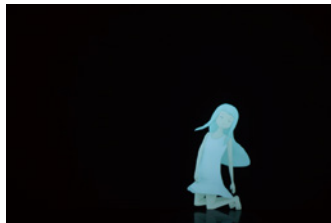


谷口真人

たにぐちまさと | 東京都生まれ。武蔵野美術大学デザイン情報学科卒業。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。絵やCG、アニメーション、コンピュータを用いたインタラクティブなインスタレーションなど複数のメディア、形態の作品を制作。現実とフィクションの存在、「私」と他者、物質と非物質等の間を巡る人間の想像力やフィーリングを探索。東京、ニューヨーク、ロサンゼルス、香港など国内外で作品を発表している。



「a room in paradise」



「あのこのいる場所を探して」(2012年 ver.)

幡ヶ谷

田中唯子

たなかあいこ | 東京都生まれ。女子美術大学大学院美術研究科版画研究領域修了。報道写真や映像など既存のメディアから得られる情報を元に、様々な版画の技法や、鉄鏝を紙や石膏に写し取ることと版画作品を制作。膨大な写真や映像の中にも印象的なものはあり、それは人に考えざるを得ない状況を与える存在だと考えている。制作することで、記憶に深く刻まれる感覚を表現することや、自分自身との結びつきを生み出せるよう試みている。



林田真季

はやしだまき | 1984年大阪府生まれ。2023年ロンドン芸術大学ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション MA Photography修了。写真というメディアとその様々な形態に興味を持ち、デジタルとアナログ両方のプロセスを試しながら、社会を反映する現代アートとしての写真に挑戦する。そのリサーチをベースとする制作活動は、インスタレーションによって、作品がより深い思考を誘発することを目指す。主な受賞歴に、第17回「shiseido art egg」入選他。

「ピース」(2020年～)
石膏、鉄粉「The Stacks」(2023年)
スチールプレート21枚、灰を混ぜたインク、紙

1・2期

笹塚

中村亮一

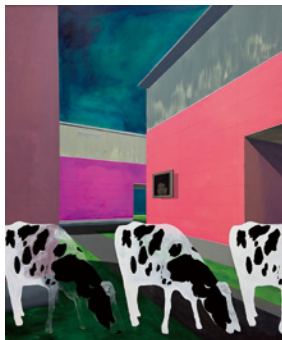
なかむらりょういち | 1982年東京都生まれ。2002年東京造形大学入学(2003年渡独を理由に退学)。現代社会における多様性や共存の在り方に着目し、2015年から「a study of identity」というシリーズに取り掛かる。2015年公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修助成、2018年ビル&メリンダ・ゲイツ財団 作品收藏、都美セレクショングループ展2019「星座を想像するように一過去、現在、未来」。

「a study of identity」(2023年)
キャンパスの上にミクストメディア

幡ヶ谷

阿久根瑠聖

あくねりゅうせい | 2001年鹿児島県生まれ。日本大学芸術学部美術学科絵画コース卒業。現代社会と幼少期に育った団地についての作品を制作。[受賞歴] Idemitsu Art Award2023、FACE2024、美術新人賞デビュー2024、入選。

「団地 - 消耗品・牛II-」(2024年)
Oil, pencil on canvas

2期 | 2024.7.9-9.28

笹塚

YUSEI

ゆうせい | 1986年福島県福島市生まれ。10代後半にストリートアートに影響を受け活動を開始。フリースタイルを重視したライブペインティングやミューラルを得意とし、自然と都会的なイメージを融合したアブстрактなスタイルで描く。近作に2024年川崎市、クロアチア リエカ市との友好プロジェクトにおけるミューラル。アート集団「輪派絵師団」メンバー。アートメディア「BEHINDTHE WALL」主宰。



「未来への友好」Mural (Rijeka Croatia)

ヒラヤマミオ

1999年福岡県生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。マイナスの感情の中にあるポジティブな側面についての制作を行っている。過去作では、コロナ禍の緊急事態宣言時や、顔面神経麻痺での入院時など、“孤独を感じる状況”から生まれた、いつもとは異なる視点や、自分なりの遊びを作品にしている。2022年「UNATH Exhibition -Silent Rhapsody-」、2021年「いい芽ふくら芽 in TOKYO」入賞、2020年「SICF 21」準グランプリ・審査員賞受賞(現代アートチームさんにとして)。

「ましかおコレクション22」(2022年)
アクリル絵の具、キャンパス、写真

幡ヶ谷

藤野遼太

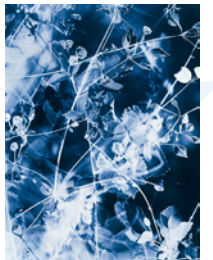
ふじのりょうた | 1992年兵庫県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。フリーランスのイラストレーターとして、ポスターや挿絵、Webメディア等にイラストを提供している。近年は絵本作家として絵本作りの活動に力を入れると共に、子供たちに絵を描く楽しさを伝えるために絵画教室を運営している。受賞歴に2023年第1回テレビ高知絵本コンクール 大賞受賞。受賞作の絵本が来年刊行予定となっている。



「絵本作品 かつおりよかんへようこそ」

広光

ひろみつ | 1989年富山県生まれ。愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻卒業。NONIO ART WAVE AWARD 2019 審査委員石井孝之賞を受賞しデビュー。ファッション、アート、コマーシャルの垣根なく数々の撮影を手掛け、遊び心ある多層的な画面構成と写真表現の幅の広さに高い評価を得ている。またアーティストユニット OOUU (オーユー) を鈴木彩加と結成。短歌の連歌のように広光の写真を発句とし、鈴木がドローイングで返答、それに広光が呼応して繰り返す Correspondence (= 往復書簡) という作品がある。



「THE THIRD HAND」(2024年)

START Box
ササハタツ
2024年度3期4期



Junko Awatani アトリエ



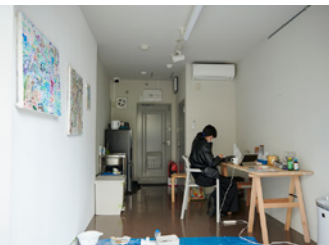
島田萌 アトリエ



中村雅奈 アトリエ



WAKO アトリエ



趙里奈 アトリエ

3期 | 2024.10.7-12.25

笹塚

Junko Awatani

1984年生まれ、東京在住。2009年京都市芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築設計学専攻修了後、石上純也や中村竜治などの建築設計事務所、ランドスケープデザイン事務所で働く。2010年代後半より風景や場所に関する作品をつくりはじめる。近年の主な作品に、色付けした微細な紙片で風景をつくりだす「Sakutei」(2022-) や、衛星写真をもとにその場所で採れた土絵具で上塗りする「Earth Painting」(2024-) など。微かな存在感の集積による能動的な風景画の手法を模索している。



「Sakutei - Summer Grasses」(2024年)
岩絵具、和紙、糊

中村雅奈

なかむらかな | 東京都生まれ。イラストレーター、画家、漫画家。植物やおぼけのような犬をモチーフに「現実とあの世のはざまにある楽園」を描く。イラストレーターとして書籍の装画、挿絵、ポケモンカードのイラストなどを手がける。漫画に『えをかくふたり(小学館)』『僕のちっぽけな人生を誰にも渡さないんだ(シカク出版)』『ゆうれい犬と街散歩(路草)』『俺美旅1.2日目～アダンの海辺～(自費出版)』などがある。2024年に「中村一般」から本名の「中村雅奈」に名義変更。



「ここは安全だよ」(2024年)
水彩絵の具、油彩色鉛筆、アクリルガッシュ

幡ヶ谷

島田萌

しまだもえ | 1995年東京生まれ。東京藝術大学絵画科油画専攻卒業。デジタルエフェクトを施した写真をモチーフに描くオイルペインターとして、東京を拠点に活動している。創作の軸には肉眼では見えない色彩や歪みも、スマホやパソコンなどのデジタルツールが普及している昨今の「新しいリアル」という考えの元、主に人物画を得意としてきたが、近年では花や陶器、ガラス細工の置物などモチーフとする対象を拡張させ、緻密な描写と色彩豊かな表現の幅を更に広げている。



「absolute difference series "Flower XIV"」(2024年) キャンバスに油彩

YUH TAKUNO

島根県生まれ。偶発的で抽象的な表現を好み、ペインティング、グラフィックアート、ミューラルなどの方法で作品制作を行う。近年は腕や手など自身の身体(肌)を用いて表現を展開。主に展示会への参加や、企業や施設への作品提供などを行い、出逢いに恵まれながら表現を続けている。



「Afterward」(2024年)
Acrylic Paint on Canvas

3・4期

笹塚

WAKO

1994年生まれ。神奈川県藤野町育ち、東京在住。2020年東京大学・大学院教育学研究科修士課程修了。2023年美学校修了。COVID-19のパンデミックのなかで絵を描きはじめ、ノーリーゼンに描いている。



「海」(2023年)
oil on cardboard

幡ヶ谷

趙里奈

ちょうりな | 1989年北海道札幌市生まれ。東京を拠点に国内外で美術作品の制作・発表を行う。2019年頃から油絵、インスタレーションの制作を始め、コロナ禍での自宅隔離を契機に3DCGを用いた仮想空間の制作を始める。主な展覧会に「Aerial Tour」(ARTRO、京都)、「DAISY WORLD」(エスパスヌーマイヤー、パリ)、「Gunaikeion」(FRAC イルドフランス、パリ)、「You had me alone」(Talion ギャラリー、東京) など。



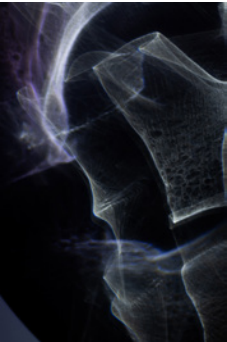
「Aerial Tour」(2024年)

4期 | 2025.1.8-3.28

笹塚

岡田舞子

おかだまいこ | 1993年岩手県生まれ。日常の観察から生まれる微細な気づきを起点とし、それを独自の視点で再構築することで、風景や事物に新たな意味や解釈を与える写真作品を制作する。主な参加に2020年T3 Photo Festival、2023年浅間国際フォトフェスティバルなど。



「Retina」(2023年)

金丸知樹

かなまるともき | 1999年東京都生まれ。武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科卒業。ある地点からある地点へ行く際の間地点に介入することを「治療」と捉え、絵画、映像、彫刻などのメディアを用いて制作している。実際に間地点に介入する試みとして、自身がキュレーションした展覧会「駅を耕す」において市ヶ谷駅地下通路の無料掲示スペースにて展示を行うなど様々な方法で実践している。



「少し考えてみる」(2024年)
Oil on canvas

幡ヶ谷

正木美穂

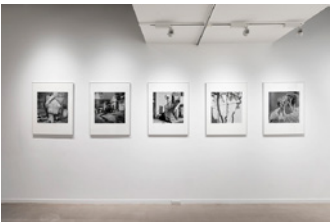
まさきみほ | 東京都生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科油画研究領域修了。"絵画とは布であり、かつ皮膚のような表層である"との考えに基づき、作品を制作している。近年ではキルティング生地のように画布を縫い、彩色した絵画「キルティング・シリーズ」を制作している。



「キルティング・シリーズNo.6」(2024年)
キャンバス、中綿、布、糸に油彩

野々山裕樹

ののやまひろき | 1991年東京生まれ。学習院大学経済学部経済学科卒業。サラリーマンの傍ら、独学で制作を開始。記憶と歴史、映像メディアの探求をテーマとしている。平凡な日常の風景を出発点に、写真と映像を通じて多層的な視点や時間軸を表現し、場所のイメージを再構築する。2021年清里フォトアートミュージアムに作品収蔵。



第20回1_wall展(2019年)

START Box
ササハタハツ
2024年度
オープンアトリエ

第7回 オープンアトリエ 2024.6.23



第8回 オープンアトリエ 2024.9.15



第9回 オープンアトリエ 2024.11.10 (北沢ランランフェスタと協力開催)



第10回 オープンアトリエ 2025.3.29



オープンアトリエ来場者の声

近所に住んでいるので知っていたが、
今日は作品がみれてよかった。

創られていく過程はなかなか見られない
から嬉しい。

アーティストの方と直接交流ができて、
作品だけ見るよりも楽しめると思います。

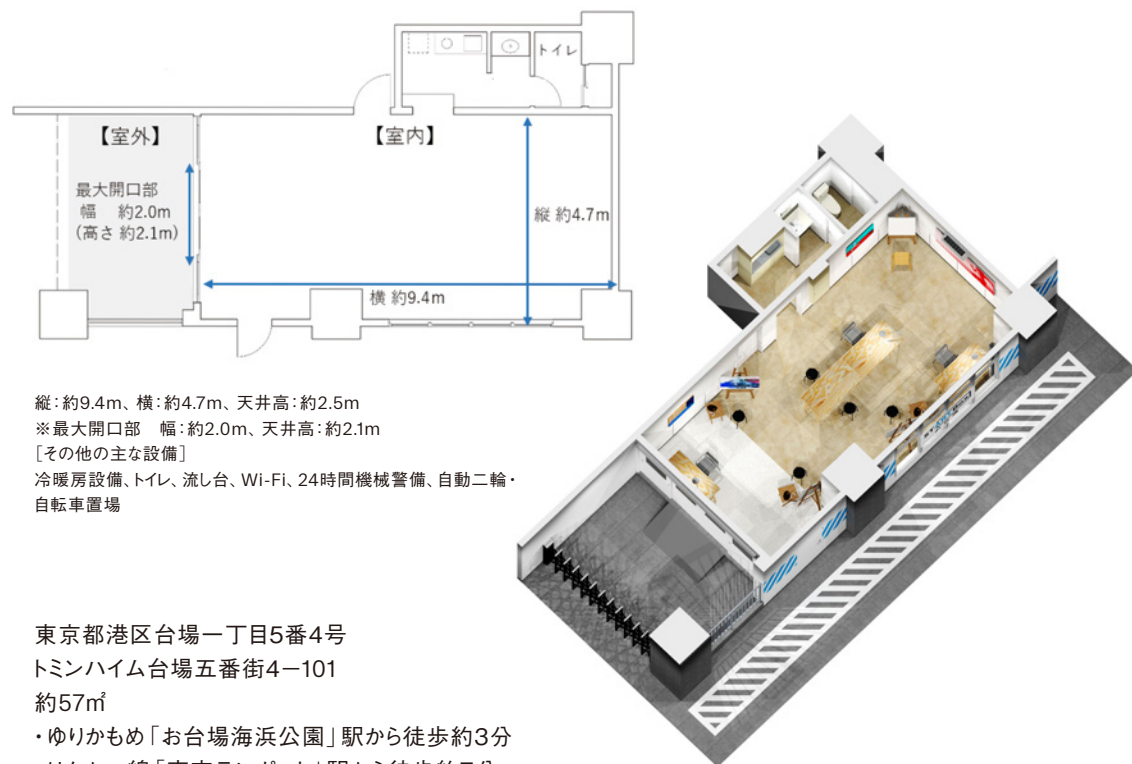
子どもも大人も一緒に楽しめたのでよ
かった。

いろいろな技法がたくさんあることを知
れ、感心しました。アーティストとじっくり
お話できて貴重な機会になりました。

03 START Box お台場 2023-2024

STARTBox
お台場

東京都住宅供給公社と連携して、お台場の公社住宅にある空き店舗を活用した創作スペースです。広いスペースを自由に利用できるので、グループでの創作や大型作品の制作に利用いただけます。



START Box お台場 2023年度1期 2024.10.9-2025.3.27

飯沼英樹

いいぬまひでき | 1975年
長野県生まれ。玉川大学、愛知県立芸術大学大学院修了後、フランス政府奨学金にてナント国立美術大学に入学。5年の留学期間中にナントの他にミラノ、コペンハーゲン、カールスルーエにて交換留学生として彫刻、現代美術を学ぶ。現在はヨーロッパ、日本、アジア各地での活動を展開している。ドイツ、オランダ、イタリア、台湾に取扱ギャラリーがある。作品は松本市美術館、タグチアートコレクション、エルンスト・バルラハ美術館、ケラバ美術館、ヴィギリウス・マウンテンリゾートなどに収蔵されている。



第1回 オープンアトリエ 2024.3.9-3.10



START Box
お台場
2024年度1期
2024.4.10-9.28

藤瀬朱里
ふじせあかり | 東京藝術大学大学院美術研究科修了。「ラインの解体と構築」に着目しその軌跡を捕まえることで、世界を理解するための新しい言語の構築を試みている。ドローイングを軸として制作を行う中でその概念を拡張することにも関心を持ち、リサーチチャーとして国際的なコンテンポラリードローイングの研究にも携わっている。過去の個展に「Songs to make the dust dance on the beams」(Untitled Space, 2022年)、「Where the kiss will be tomorrow」(BLOCK HOUSE, 2023年)など。



「Entanglement」(2024)
キャンバス、糸

第2回 オープンアトリエ 2024.9.28-29



START Box
お台場
2024年度2期
2024.10.7-2025.3.28

尾形 凌
おがたりょう | 2001年4月東京都生まれ。2020年4月東京藝術大学美術学部先端芸術表現科入学、2024年3月学部卒業、東京藝術大学先端芸術表現科修士1年在籍。現代における妖怪や不可視の存在たちを作品の主題とし、絵画や立体、アニメーションなどを通じて表現している。加えて妖怪と人間の狭間やあの世とこの世の狭間に存在する世界を描く事でそれらを可視化することを試みている。



「淫楽図2024」
和紙に墨、水彩絵の具、コラージュ

第3回 オープンアトリエ 2025.3.16



04 作品発表の機会 2023-2024

東京都が共催する文化イベント等において、START Box で活動するアーティストが制作した作品の発表の場を提供しています。



START Box EXHIBITION Vol.3 / 2025.2.11～2.16 @YAU CENTER

START Box EXHIBITION@ MEET YOUR ART FESTIVAL

東京都は、民間企業等と連携して、ライブ・エンターテインメントを含む多様なジャンルでの芸術文化の創造を推進しています。その一環で開催された「MEET YOUR ART FESTIVAL」にて作品を展示しました。2024年には「START Box 'MYAF' EXHIBITION 2024」としてプログラム化。多くの方にご来場いただきました。

会場 | WHAT CAFÉ 内の特設ブース

主催：東京都、MEET YOUR ART FESTIVAL 実行委員会

MEET YOUR ART FESTIVALとは
アートを軸に、音楽ファッション ライフスタイル等の隣接した多様なカルチャーを一堂に会することで、領域を超えてそれぞれのカルチャーの魅力に対する気付きを創出する領域横断型のアートフェスティバルです。アートを中心としたミックスカルチャーフェスティバルの開催を通して、多くの方へアートに触れるきっかけや、アーティストを知る機会を創出していきます。

MEET YOUR ART FESTIVAL2023 出展 / 2023.10.6-10.9

出展作家 | 西村祐美、SAKAMOTO ENTERTAINMENT、山本未知 (thirdkindbooks)、中山琳太郎、澁木智宏、天草ミオ



START Box 'MYAF' EXHIBITION 2024 / 2024.10.11-10.14

2024年は、START Box 'MYAF' EXHIBITION 2024 と題し、6名の作家が選抜され、WHAT CAFÉ 内の特設ブースに出展いたしました。

出展作家 | 澁木智宏、西村祐馬、興梠優護、林田真季、中村亮一、藤瀬朱里



START Box EXHIBITION@YAU CENTER

START Boxで活動するアーティストによる合同作品展を定期的実施しています。これまで、東京都が共催する「有楽町アートアーバニズム YAU」の協力を得て「YAU CENTER」(国際ビル1階)にて、3回開催しました。会期中には、作品展示のほか、ライブペインティングやトークイベントなどを行い、来場者に作品やアーティストを身近に感じていただきました。

会場：国際ビル1階 YAU CENTER (千代田区丸の内3-1-1)

主催：東京都、(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
協力：有楽町アートアーバニズム YAU

YAUとは
NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所株式会社により組成された「有楽町アートアーバニズム実行委員会」が2022年2月に立ち上げた、まちがアートとともにイノベティブな原動力を生み出すための実証パイロットプログラムです。2022年10月より一部事業を東京都と共催し、アーティストの稽古場や制作場所、様々な領域に開いたコワーキングスペース、トークイベント「YAU SALON」を実施するなど、ビジネス街においてアートと社会やまちを繋ぐコミュニティ形成に取り組んできました。2024年3月には国際ビル1階にオルタナティブスペース YAU CENTERをオープン。今後まちとの接点を多く持つことで「アートアーバニズム」を継続・実践し、大丸有におけるアートと企業・ワーカーをつなぐ継続的な活動体となることを目指しています。

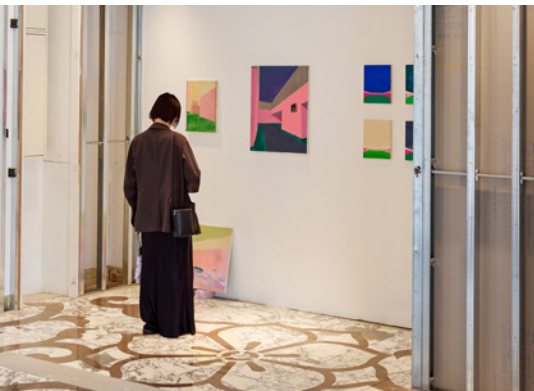
Vol.1 / 2024.3.22-3.26

出展作家 | 飯沼英樹、興梠優護、滝本優美、西村祐馬、松田匡代、松本千明、南靖子、ヨフ、Yoko Ichikawa



Vol.2 / 2024.9.3-9.8

出展作家 | 阿久根瑠聖、三本木欽、田中唯子、林田真季、ヒラヤマミオ、広光、藤瀬朱里、中村亮一、YUSEI
イベントゲスト | 長谷川新 (インディペンデント・キュレーター)



Vol.3 / 2025.2.11-2.16

出展作家 | 尾形凌、岡田舞子、金丸知樹、島田萌、趙里奈、野々山裕樹、正木美穂、Junko Awatani、WAKO、YUH TAKUNO
イベントゲスト | 李沙耶 (ギャラリー「LEESAYA」代表)、長谷川新 (インディペンデント・キュレーター)



START Box 利用アーティスト交流会 2025.2.11

会場：YAU CENTER

START Boxではこれまで多様なジャンル・キャリアのアーティスト、計45名が利用してきました(2025年3月末日時点)。各期にて交流会を行っていましたが、今回、初めて、施設開設からこれまで利用したアーティスト全体の交流の機会を設けることができました。当日は、計17名のアーティストが参加し、作品解説やワークショップ等を通じて交流を深めました。START Boxでは、今後もアーティスト同士の交流の機会を設けていく予定です。



START Box EXHIBITION 来場者の声

場所もよく、新人支援が素晴らしい。作家さんが身近なことよと思った。

友人のアーティストを観に来たが、他のアーティストさんの作品もとても素敵でした。あまりこういったギャラリーに来たことはないのですが、人によって見えてる世界が全く違うんだな…ととても興味深く、また是非足を運びたいと思いました。

作風もコンセプトもバラバラの作家さんたちですが、それぞれの作品が空間により活かされていると感じました。良かったです。

アーティストさんが作品の説明をしてくださいました。解説を聞くとより作家作品に興味がわきました。

アクセスが良く、気軽に行けました。皇居の緑豊かな雰囲気も感じる事ができ、会場に入る前から、期待値が上がるような感じがしました。

05 利用者の声 2023-2024

交流会やオープンアトリエがよかった

交流会が最初にあったことで、時間帯が合わない方とも顔を合わせることができ、メッセージでやり取りする機会が生まれました。オープンアトリエについては自分の作品について説明する機会が与えられることで、より制作物について考えることになりよかったです！

空きスペースの有効活用

私自身が笹塚の近所に住んでいるので、この場所がこれまでずっと放置されていたことを見ていました。ずっと勿体無いと思っていたので、このように活用していただけたこと、そしてそこで制作するアーティストとして選んでいただけたことがとても嬉しかったです。
都内の一等地でこのような場所を継続的に持ち続けることや提供し続けることはきっと簡単ではないとは思いますが、ぜひもっとスペースを確保して、このような事業を継続していただきたいなと思いました。

横の繋がりができた

YAU のグループ展も大変ありがたく、最後に発表の機会をいただけたことで、START Box に参加できたことの意義やアーティストとの横のつながりができました。

都内で安価なアトリエを使用できた

都内で制作場所を確保するのは非常に難しかったため、若手支援ということで安価でこのようなアトリエを使用でき、本当にありがたかった。

防犯面も安心だった

一人でアトリエを借りることは、防犯面など心細くなりがちですが、管理人さんがいたりすぐ隣に顔見知りがいことが安心に繋がりました。

多様な作家との繋がり

作家活動をしていく際になかなか作ることのできないアーティスト同士の繋がりを得ることができて、大変嬉しく思います。また、アーティストも様々なバックグラウンドや、作品（平面、立体、インスタレーションなど）に多様性があり、作家活動が続けていく際に参考になるお話を聞くことができました。

細かな生活面での配慮

スペースの使いやすさと、冷蔵庫やケトル、トイレ掃除、ゴミの破棄などの細かな生活面での配慮が大変有り難いです。ここまで備品やサポートのあるアトリエは他に見ないので、もっと広がって欲しいと思いました。

設備の行き届いたスタジオ

私の知るほぼ全てのアーティストが、慢性的にスタジオ不足に悩んでいる。そこに、安価で交通の便がよく、設備も行き届いているスタジオを供給されていることが大変素晴らしい試みだと思う。多くの困難をクリアし実現されたことに、心から敬意を表するとともに、本当に感謝しています。

制作の相談もできて幅が広がった

格安でアトリエを使用させていただけることはもちろん、作家同士の繋がりができたことがとてもよかったです。作家は個人で制作している限りこもりがちで、制作の幅が狭まることや、考えが凝り固まってしまうがちで、そういった中で、制作についての相談がすぐにできるような環境がまだ未熟な者にとって非常にありがたいと感じました！

風通しがちょうどいい

現状の制作現場から離れたアトリエのあり方は、とてもいい刺激をいただきました。
スタッフの皆様やアーティスト、地域住民との交流という機会があることで、それぞれ私的なアトリエとしての活用ながらも外に開かれた状態が担保されていたと思います。その風通しがちょうどいい緊張感を生み、制作にもいい刺激を与えていたなと思っています。

長期的な取り組みになってほしい

今後もこうした施設や拠点が増えていくと、嬉しいです。短期的な成果が出にくいプロジェクトかと思いますが、長期的な視点で、長く施設の充実を図っていただけるとありがたいです。
10年くらいの単位で捉えて進んでいかないと、文化は成長していかないと思っています。

快適に制作ができる

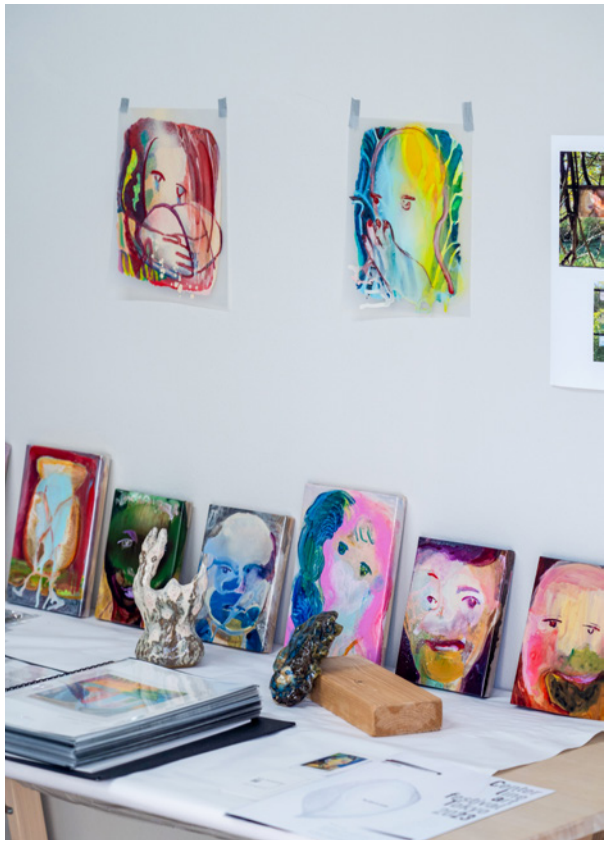
スタジオ利用中は普段から気になることがないか声をかけていただいたり、女性の利用するスタジオの清掃に女性の方が入っていただいたり、快適に制作するための環境づくりに細部まで気を遣っていただいているを感じながら安心して楽しく制作しながら過ごすことができました。

意見交換ができた

普段は仕事をしているので、自分や人の作品について話したり聞いたりする機会があるだけでも有難いです。オープンアトリエは、思っていたより見て下さる方がいて楽しい時間を過ごせました。

作家との交流が学びになった

あっという間の半年間でした。特に僕は、隣の作家さんたちとの交流が新鮮で、自分の学びの場になりました。これは、普通に制作をしているだけでは得られない機会でした。



STARTBox

公式ウェブサイト



公式 Instagram



公式 X



〒102-0073

東京都千代田区九段北4-1-28九段ファーストブレイス5階・8階

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

TEL: 03-6256-8430 (代表)

E-MAIL: startbox@artscouncil-tokyo.jp

発行：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

発行日：2025年3月31日

写真：原口良太、中田樹、Yujiro Ichioka, TAM Inc.



ARTS COUNCIL TOKYO

